

県立丹波並木道中央公園の経緯他

参考資料

丹波の森宣言と丹波の森構想

■『丹波の森宣言』の採択（S63.9.1）※抜粋

1 丹波の健全な発展を損なうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。


4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

■『丹波の森構想』の策定（H元.3）

☆丹波の森構想（『丹波の森宣言』の実現のための指針）

丹波地域を「丹波の森」と位置づけ、緑豊かな伝統文化など地域の特性や資源を生かしながら、人と自然と文化、産業の調和した地域づくりを住民、事業者、行政が一体となって推進

丹波の森構想概念図



（参考）

☆『丹波の森宣言』

【宣言2】

丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

【宣言を実践する取組】

自然を体験する公園をつくり、活かす

↓

H8～ 丹波の森の中核となる施設づくりと多彩な体験プログラムの実施（シンボルの森づくり）

●シンボルの森：丹波の森公園、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園

当初基本計画の検討経緯及び内容

■S63.11

★「丹波並木道公園」づくりへの提言（北摂丹波の祭典実行委員会）

★知事：丹波並木道公園構想を表明（知事と町長まちづくり懇話会）

・丹波地域全体を統一したテーマ（並木道）で結ぶ地域結集軸を作り、地域の一体性と有機的なネットワーク化を図る。

・地域で取り組まれてる丹波の森づくり支援し、これらをネットワークして地域の骨格的なランドスケープ形成を目指す。

■H元年・3月

☆丹波地域における大規模レクリエーションリゾート公園計画調査

・県立都市公園の計画のための基礎調査

■H2年・3月

☆丹波地域における大規模レクリエーションリゾート公園基本構想調査

■H3・3

☆丹波並木道公園基本計画策定調査

●県立広域公園の位置付け

丹波並木道中央公園は、丹波地域における地域整備の共通イメージである「丹波の森」づくりを先導する「シンボルプロジェクト」としての並木道公園づくりの中核施設として、丹波地域で初めての県立広域公園を計画

（注）丹波並木道公園構想

・丹波地域全域を統一したテーマ（並木道）で結集軸を形成する。（R176, R372, R175, 県道篠山山南線が対象）

・結集軸の結節点に中核施設を整備

●基本方針

①並木道公園構想をリードし、その中核となる公園

②丹波の文化・風土を生かし、新しい文化、風土づくりに資する公園

③新しいレクリエーション活動に対応した公園

④川、道などのネットワークを生かした公園

⑤より広域的な道路交通体系に対応した公園

■H4・3

☆丹波並木道中央公園の都市計画決定

基本計画の変更経緯及び内容

■H13.3

☆基本計画の見直しを実施

（計画を見直した理由）

①社会情勢の変化

当初計画は行政主導で策定した計画であり、公共事業に対する住民の関心の高まりや維持管理への参加意識の高まり

②県の厳しい財政状況

③埋蔵文化財の出現

●基本方針（変更後）

◆地域のシンボルとなる「並木道」の形成

◆地域風土を展開した公園づくり

・農村風景を取り入れ、ふるさと丹波づくり

◆丹波の名称となり人々が集う公園づくり

◆地域振興・活性化に資する公園づくり

・地域住民の参画と協働

◆都市住民にとっても魅力とたのしさのある公園づくり

☆基本コンセプト

“ふるさと風景の創出と並木道の形成による新しい丹波の里づくり”

■H14.3

☆平成13年11月に丹波並木道中央公園計画協議会及び計画部会を設立し、県民の参画と協働により「基本計画の変更」を行った。

☆基本コンセプト

◆「森」の保全・再生モデルの提示（情報発信）

・森づくりの実験実証

◆ふるさと丹波の表情を発信

・丹波地域の景観維持及び創造

◆生活空間としての「森」

・「森」で学び、「森」で遊ぶコミュニティ形成

施設名	具体的な内容
丹波の森公園 (H8開苑)	①丹波の森づくりの拠点施設 ②芸術文化や自然体験等様々なプログラムを実施 ③来場者はのべ約550万人（H29年度：23.7万人）
ささやまの森公園 (H14開園)	①人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する「ふるさとの森公園」 ②自然体験ができる様々なプログラムを実施 ③来場者はのべ約29万人（H29：1.5万人）
丹波並木道中央公園 (H18開園)	①広域都市公園 ②都市と農村の交流・地域活性化、森林の新たな保全・再生モデルの実現をめざす。 ③自然とたつぷり触れ合える公園として様々な事業を実施。 ④園内の森林を間伐・製材しており、都市公園内に製材所があるのは全国的にも珍しい。 ⑤来場者はのべ約109万人（H29:14.2万人）

【位置付け】

丹波の森構想の集大成として丹波並木道中央公園「丹波の里づくり」と位置付ける。

『丹波並木道中央公園整備方針』

●自然と共に生きる地域社会の実現（自然との共生）

・丹波並木道中央公園の整備にあたっては、自然環境の保全を図るため地形改変を必要最小限とし、丹波地域における施設整備の在り方について情報発信するものである。

・人と自然のあり方については、里山だけでなくヤマや森の区域についても林業をベースとした「森との関わり方」を学び、体験できる公園である。

●潤いと安らぎのある地域社会の実現（素晴らしい故郷景観の共有）

・丹波並木道中央公園全体を丹波の森（丹波地域全体）と位置付け、丹波地域における代表的な景観形成である「ノラームラ→里山→ヤマー森」で構成し、丹波の原風景（故郷景観）を創造する。

・丹波地域はスギやヒノキの人工林が多くあり、その殆どが手入れをされていない状況である。よって人口林等を間伐し「緑と自然環境の豊かな地域」の景観形成を行う。

●活力ある開かれた地域社会の実現（地域活性化）

・公園整備及び公園の管理運営において地域住民の参画と協働により実施していく。

・丹波地域における各種施設との連携を図り、地域の活性化を目指す。

○循環社会の実現（ゼロエミッション）

・間伐材の有効利用を図る。

○ユニバーサルデザインの導入

■H15.3

☆丹波並木道中央公園基本計画を策定

☆基本コンセプト

①公園全体を丹波の森と位置付け、丹波の原風景を創造する。  
「森構想基本理念：潤いと安らぎのある地域社会の実現」

②公園内に多くある人工林を整備し「自然環境の復活」を行うとともに、自然環境復活プロセス情報を発信する。  
「森構想基本理念：自然と共に生きる地域社会の実現」

③公園の管理運営を県民の参画と協働により行い地域密着型の公園を目指す。  
「森構想基本理念：活力ある開かれた地域社会の実現」